

# 人は人を浴びて人に育つ

～ふるさと形原を愛する形中生～



**出前  
授業**

教科書では**学べないこと**を

地域から**学ぼう!**

本校では、「教科書では学べないことを地域から学ぼう」という考え

で、授業や行事等で多くの地域の方を招き、その知識や経験、技能などを生徒たちが学ぶ機会をたくさん設けています。この秋も、さまざまな取り組みをしましたので紹介します。

## 中1 ガマツク体験(総合)

11/14(月)、1年生が「ガマツク」を体験しました。「ガマツク」とは、子どもたちが遊びながら「蒲郡」や「社会」に興味を持つきっかけにしておうと、蒲郡商工会議所青年部がつくったカードゲームです。



ガマツク開発者の鈴木市議会議員さん(形中卒業生)

ゲーム内容は、プレイヤーがさまざまな職種(ユーチューバーや芸能人、医者や市長等)の市民となり、施設を建設したり、地震や感染症などのさまざまなトラブルにあたりながら、産業・福祉・教育・生活のポイントを高めていき、一番人口を増やしたプレイヤーが勝つというものです。人生ゲームに似たところがあり、1時間という短い時間でしたが、生徒たちは集中し、真剣にゲームを楽しんでいました。

## 中1 企画書プレゼン「形原のロープが一番活躍できるアジアの州はどこだろう？」(社会)



1年生は、「形原のロープをアジア州で売り込むなら、どの地域が適しているか」を社会の授業で考えてきました。

授業のまとめとして、11/25(金)に、稲葉製網の稲葉さんをお招きしました。そして、西アジア・南アジア・東南アジア・東アジアそれぞれの地域を推すグループの代表が企画書のプレゼンをして、稲葉さんにその内容を評価していただく時間をつくりました。私が印象に残ったプレゼンは、東南アジアを推すグ



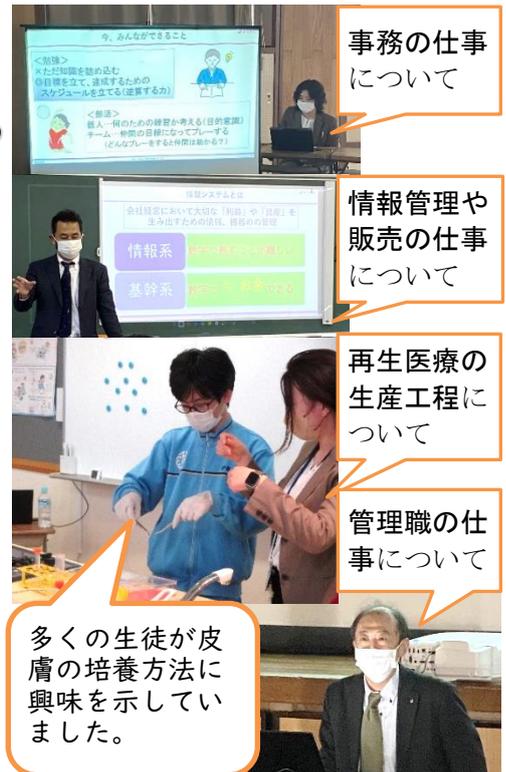
稲葉製網の稲葉さん  
(形中卒業生)

ループです。東南アジアは環境破壊により、水質が汚染され、マングローブ林が枯れたり、エビの養殖に大きな被害がでたりしているそうです。そのことに着目し、「繊維に微生物を付着させて水質をきれいにするロープを開発して売り込む」というプレゼンでした。稲葉さんからも実際に検討してもいい案だと認めていただきました。今回の授業では、アジアの地域ごとの特色を理解するとともに、形原のロープをさらに発展させる方法を考えることで、ふるさとを愛する心も育まれたと感じました。

## 中2 J-TEC 出前授業(総合) 会社にはどんな部署があるの？

11/24(木)、三谷北通にある「ジャパン・ティッシュエンジニアリング(J-TEC)」の方をお招きして、2年生を対象に出前授業を行いました。J-TEC は、日本で唯一、再生医療製品を生産できる施設を持ち、研究・製造・販売・その後の対応までトータルに行っている蒲郡の企業です。

会社にはさまざまな部署があり、それらが支え合って成り立っていることを知ってほしい。また、将来自分が活躍できそうな部署はどこなのかを考える機会にしてほしいと願い企画しました。授業後の感想には、「将来の仕事を考えるのが楽しくなった」「会社はみんなの力があって成り立っていることがわかった」「再生医療は人の命を守るために大切な仕事だということがわかった」という意見がありました。



事務の仕事  
について

情報管理や  
販売の仕事  
について

再生医療の  
生産工程に  
ついて

管理職の仕  
事について

多くの生徒が皮膚の培養方法に興味を示していました。

## 中3 住みやすい形原ってどんな町？ (社会)

～公共施設マネジメント オープンハウス～ 11/24(木)、形原のまち



形原の理想像を班で考え、B紙にまとめています。



形原を理想のまちにするための案を発表しました。

づくりに中学生の意見を取り入れていただけるように、市役所公共施設マネジメント課をお招きして、オープンハウスを行いました。最初に市役所の方から公共施設マネジメント形原地区ワークショップの進捗状況を聞きました。A(ママの味方)、B(園児と児童と一緒に遊ぼう)、C(子どもの活動の場を集めよう)、D(広い保育園)という4つの案が示され、どの案が良いか生徒がアンケートに答えました。次に「形原がこんなまちになったらいいな」という理想像と、「そのために必要なものは何か」を班で考え、B紙にまとめ発表しました。「忙しいママのために、お年寄りに子どもをみてもらえる施設があるといい」「子どもからお年寄りまでいろんな人が集まれる場所があるといい」など、さまざまな意見が出されました。未来の形原にそれらの意見が反映されるといいですね。